



宮司プレス 第百七十号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和三年五月二十七日

◇宮司の柴田です。中国地方では、史上二番目に早い梅雨入りとなりました。五月に降る雨のことを五月雨(さみだれ)といいますが、もともとは、梅雨に、しとしと降る雨のことでした。旧暦と新暦とでは、一ヶ月か一ヶ月半、はたまた、二ヶ月ほどの誤差(ごさ)が生(しょう)じますので、史上二番目に早い梅雨入りが、本来の五月雨となっているわけです。その五月雨にしつとりと濡

の感であります。赤面(せきめん)の至(いた)りついでに、拙い和歌をもう一首披露(ひろう)させていただきます。

「生れし子の 笏(しやく)になさむと 植ゑし檜(かし) 根延(ねば)え葉もいと

あざやかに映ゆ」これは、有難いことに第一子(だいつし)を賜(たまわ)り、しかも、男子(だんし)を授かりました。当家(とうけ)にとつて、八十年ぶりの慶事(けいじ)でもありました。しかも、先々代(せんぜんせい)の八十二(やそじ)宮司が、逝去(せいきよ)した三か月後のことでもあり、「生まれ変わり」と恐悦(きょうえつ)したことが、思いだされます。そろそろ、その檜(かし)から、笏(しやく)を奉製(ほうせい)しなければなりません。

青年神職会の会員でした。隔月(かくつき)の奇数月に例会が開催されています、和歌の達者(たつしや)な先輩神職の指導のもとに、その例会にあわせて「歌会(かかい)」も、催(もよお)されています。

◇さて、宮司プレス第十二号に詳述(しょうじゆつ)しています。五月は、端午(たんの)の節句(せきぐ)です。端午(たんの)の端(は)は、初め(はつめ)の意味(い)で、月の初め(はつめ)の「午(うま)」の日(ひ)をいい、五月に限りませんでした。やがて中国の漢(わん)の時代(じ)以後(いご)に五月五日(ごご)になり、「端五(たんご)」とも書(か)れたようです。家々(かか)では菖蒲(あやめ)を軒(きん)にふき、酒(さけ)に入れ、湯(ゆ)に浮かべて入浴(にゅうよく)し、菖蒲(あやめ)の枕(まくら)で寝(ね)ました、菖蒲(あやめ)に神様(かみさま)がおうつりになる依代(よりしろ)と考(かん)えられ、いろいろな邪気(じやき)や災(わざ)いをはらうものとして考(かん)えられていました。この邪気(じやき)をはらう菖蒲(あやめ)の力(ちから)によつて、一日(いちにち)も早い、この「コロナ禍(か)」の終息(しゆうしつ)を願(ねが)うものです。病原(びょうげん)に感染(かんせん)症(しや)をもたらし、数を減(へ)らして生態系(せいたいけい)のバラン(ばらん)スを保(たも)つ役割(やくわい)があるそうです。新型コロナウイルスは、その使命(しめい)と役割(やくわい)を果た(はた)すべく、「自然界(しぜんかい)から送り込まれてきた最新鋭(さいしんえい)の天敵(てんてき)」という、信じ(しんじ)がたい説(せつ)もあるそうです。ウイルスが次々(つぎつぎ)に変異(へんい)して感染力(かんせんりき)が強(よ)まっていますので、さらなる感染(かんせん)対策(たいさく)の強化(きやうか)が必要です。夢(ゆめ)のまた夢(ゆめ)でしょうが、この変異(へんい)が進(すす)み、無力化(むりきか)することを願(ねが)わずにはいられません。私共(わがら)も、昨(きの)年来(らい)より、「マスク着用(さくしやう)」、「手指消毒(しゆじゆせき)」、さらに、「三密(さんみつ)の回避(かい)」、「集会(かい)移動(いどう)の制限(せいげん)」という、「行動(こうどう)変容(へんよう)(こうどうへんよう)」を余儀(よぎ)なくされています。これ(こゝ)からも、「行動(こうどう)変容(へんよう)」を受け入れ(うけいれ)つつ、辛抱(しんぼう)強(よ)く生活(せいかつ)することが必要(ひつや)です。特に、これ(こゝ)からの生活(せいかつ)にたいして、悲觀(ひかんと)的(てき)になりがち(がち)です。しかし、じつは、

「妻活(い)けし 菖蒲(あやめ)の花(はな)を ながめつつ 生まれくる子の 名前(な)考(かん)ふ」という、拙(つたな)い和歌(わが)を詠(よ)んだ記憶(きおく)があります。その長男(ちやうなん)と一緒に御奉仕(ごほうし)申し上げ(しやうしやう)ているわけですから、隔世(かくせい)の懐(なつか)し

かたようです。家々(かか)では菖蒲(あやめ)を軒(きん)にふき、酒(さけ)に入れ、湯(ゆ)に浮かべて入浴(にゅうよく)し、菖蒲(あやめ)の枕(まくら)で寝(ね)ました、菖蒲(あやめ)に神様(かみさま)がおうつりになる依代(よりしろ)と考(かん)えられ、いろいろな邪気(じやき)や災(わざ)いをはらうものとして考(かん)えられていました。この邪気(じやき)をはらう菖蒲(あやめ)の力(ちから)によつて、一日(いちにち)も早い、この「コロナ禍(か)」の終息(しゆうしつ)を願(ねが)うものです。病原(びょうげん)に感染(かんせん)症(しや)をもたらし、数を減(へ)らして生態系(せいたいけい)のバラン(ばらん)スを保(たも)つ役割(やくわい)があるそうです。新型コロナウイルスは、その使命(しめい)と役割(やくわい)を果た(はた)すべく、「自然界(しぜんかい)から送り込まれてきた最新鋭(さいしんえい)の天敵(てんてき)」という、信じ(しんじ)がたい説(せつ)もあるそうです。ウイルスが次々(つぎつぎ)に変異(へんい)して感染力(かんせんりき)が強(よ)まっていますので、さらなる感染(かんせん)対策(たいさく)の強化(きやうか)が必要です。夢(ゆめ)のまた夢(ゆめ)でしょうが、この変異(へんい)が進(すす)み、無力化(むりきか)することを願(ねが)わずにはいられません。私共(わがら)も、昨(きの)年来(らい)より、「マスク着用(さくしやう)」、「手指消毒(しゆじゆせき)」、さらに、「三密(さんみつ)の回避(かい)」、「集会(かい)移動(いどう)の制限(せいげん)」という、「行動(こうどう)変容(へんよう)(こうどうへんよう)」を余儀(よぎ)なくされています。これ(こゝ)からも、「行動(こうどう)変容(へんよう)」を受け入れ(うけいれ)つつ、辛抱(しんぼう)強(よ)く生活(せいかつ)することが必要(ひつや)です。特に、これ(こゝ)からの生活(せいかつ)にたいして、悲觀(ひかんと)的(てき)になりがち(がち)です。しかし、じつは、

を軒(きん)にふき、酒(さけ)に入れ、湯(ゆ)に浮かべて入浴(にゅうよく)し、菖蒲(あやめ)の枕(まくら)で寝(ね)ました、菖蒲(あやめ)に神様(かみさま)がおうつりになる依代(よりしろ)と考(かん)えられ、いろいろな邪気(じやき)や災(わざ)いをはらうものとして考(かん)えられていました。この邪気(じやき)をはらう菖蒲(あやめ)の力(ちから)によつて、一日(いちにち)も早い、この「コロナ禍(か)」の終息(しゆうしつ)を願(ねが)うものです。病原(びょうげん)に感染(かんせん)症(しや)をもたらし、数を減(へ)らして生態系(せいたいけい)のバラン(ばらん)スを保(たも)つ役割(やくわい)があるそうです。新型コロナウイルスは、その使命(しめい)と役割(やくわい)を果た(はた)すべく、「自然界(しぜんかい)から送り込まれてきた最新鋭(さいしんえい)の天敵(てんてき)」という、信じ(しんじ)がたい説(せつ)もあるそうです。ウイルスが次々(つぎつぎ)に変異(へんい)して感染力(かんせんりき)が強(よ)まっていますので、さらなる感染(かんせん)対策(たいさく)の強化(きやうか)が必要です。夢(ゆめ)のまた夢(ゆめ)でしょうが、この変異(へんい)が進(すす)み、無力化(むりきか)することを願(ねが)わずにはいられません。私共(わがら)も、昨(きの)年来(らい)より、「マスク着用(さくしやう)」、「手指消毒(しゆじゆせき)」、さらに、「三密(さんみつ)の回避(かい)」、「集会(かい)移動(いどう)の制限(せいげん)」という、「行動(こうどう)変容(へんよう)(こうどうへんよう)」を余儀(よぎ)なくされています。これ(こゝ)からも、「行動(こうどう)変容(へんよう)」を受け入れ(うけいれ)つつ、辛抱(しんぼう)強(よ)く生活(せいかつ)することが必要(ひつや)です。特に、これ(こゝ)からの生活(せいかつ)にたいして、悲觀(ひかんと)的(てき)になりがち(がち)です。しかし、じつは、

「悲観」は「気分」で、きっとよくなつていくのだという希望を持ち続けるといふ、「樂觀」は、「意志」なのだそうす。

◇ジャンバルジャンが主人公の、「あゝ無情」のお話の作者は、ビクトル・ユゴーさんです。小学生の頃、土曜日の午後から、お習字のお稽古(おけいこ)に、先生のお宅へ通っていました。必ず、お稽古の前に、ご本を読んてくださっていました。その長編(ちようへん)の「あゝ無情」を長期間にわたり、朗読をされていたので、よく覚えています。理不尽(りふじん)な仕打ちに耐(た)えつつも、その破天荒(はてんこう)な主人公の人生を、ハラハラドキドキしながら、聞いていましたし、お習字のお稽古よりも、その朗読(ろうどく)の時間が、楽しみでもありました。そのビクトル・ユゴーさんは、「未来には、三つの意味を有(ゆう)する」と述べられています。臆病者(おくびようもの)には、「不可能(ふかのう)」、楽道家(らくてんか)には、「未知(みち)」、そして、思慮(しりよ)深く勇猛果敢(ゆうもうがかん)な者には、「理想(りそう)」といふ意味を有(ゆう)する(ゆう)すると述べられました。臆病者も楽道家も、その時の「気分」で、未来を考え、明るい未来の到来(とうらい)を見失っているわけです。勇猛果敢な、その行動にこそ、

確かな「意志」が、はたらくのではないでしょう。私は、日本人の勇猛果敢さは、「神信心(かみしんじん)」だと思ひます。

◇今、「ないもの」を嘆(なげ)く悲観ではなく、「あるもの」にたいして、「生かされている今」に感謝をする、きつと、神様が守つてくださるといふことを信じてという「意志」こそが、「神信心」なのです。「神信心」といふ日本人の心意気で、皆様方のこれからの暮らしが、きつと、明るい未来、理想に近づく未来でありますよう、お祈り申し上げます。

◇五月の祭典行事予定(報告も含む)

▼月次祭 *五月一日、十五日

▼貴布祢神社月次祭 *五月一日

▼塩釜神社例祭 *五月三日

▼更衣(ころもがえ) *五月五日

▼福浦金刀比羅宮例祭本殿祭 *五月十六日

▼絵画奉納 *五月二十一日



※福浦町の丸山画伯から、祈年祭の時の絵を奉納されました

◇五月の宮司動静報告(予定も含む)

▼彦島八幡宮関係団体

□奉賛会役員会 *五月十二日

□敬神婦人会総会 *五月三十日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

□山口県神社庁役員会 *五月二十一日

▼その他

□迫町自治会役員会 *五月十九日

□人権擁護委員人権相談 *五月二十六日

◇六月の祭典行事予定

▼月次祭 *六月一日、十五日

▼貴布祢神社 *六月一日

▼海士郷恵比寿神社例祭 *六月十日

▼貴布祢稻荷神社例祭 *六月十二日

▼大祓式 *六月三十日

◇六月の宮司動静予定

▼彦島八幡宮関係団体

□維蘇志会奉仕作業 *六月六日

□奉賛会茅の輪奉製奉仕作業 *六月二十七日

▼山口県神社庁、同下関支部

□教化部教化委員会 *六月十一日

□支部支部幹事会 *六月十五日

□役員会 *六月十八日

□定例協議委員会 *六月十八日

▼講演活動

□初任神職研修会講義 *六月十一日

▼その他

□しものせき木鶏クラブ *六月一日

□迫町自治会役員会 *六月十六日

□社会福祉法人あす評議員会 *六月十九日